

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2272300861		
法人名	(有)みなみ風		
事業所名	グループホームみなみ風		
所在地	静岡県富士市伝法1773-1		
自己評価作成日	平成27年9月15日	評価結果市町村受理日	平成27年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2272300861-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2272300861-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年8月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

最後までその人が自分らしくなじみの関係の仲間と、ゆっくりのんびりと生活していただけるように日常を送っています。ご家族にも安心して生活ができるよう情報の共有に努めています。職員間も認め合いながら働ける職場作りを目指しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「家庭のように」「職員は黒子で」とゴールが明確で職員にも浸透しています。開設から12年を経て本年はウッドデッキを貼り替え、キッチンをリニューアルし、また法人代表が兼務していた管理者の職と事務担当を其々新しい職員が執り行うことになり、組織の変革もありました。新鮮野菜や魚が軽トラックで届けられ、調理専任者もいて、250円との価格とは思えないほど充実したメニューで、精米したてのご飯は旨味たっぷりです。食事介助が必要な人が3名と関わる時間は延びるばかりですが、一人ひとりの症状や性向に呼応した声かけや介助方法が取られていて、糖尿病患者の薬が減った例からも食バランスの高さが覗えます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく、第2の家で、終の棲家として暮らす。」の方針を、みなみ風の理念とし「みなみ風が吹く、第2の我が家で、ゆつくり、のんびり、なじみの仲間と自分らしく、いつまでも」を玄関に掲げ日々思いを共有する話し合いの場を作っている。	「家庭そのままに」との代表の想いは管理者に受け継がれ、職員に繰り返し伝えられています。また、看取りを通じて培った経験を職員間で感謝しつつ次の人へとバトンを渡せることも自負となっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の祭り参加し掃除や出店を出店させていただいた。近隣の中学・高校生のの福祉体験受け入れを行っている。日常的に散歩中挨拶等をし交流している。	併設事業所に多様なボランティア訪問があるため、賑やかな雰囲気が苦手な人に無理強いすることなく、交流の機会をもてています。町内の夏まつりには利用者をつくった味噌を販売し、地域から喜ばれました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の席で実践していることを報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、小規模多機能居宅介護と合同で定期的開催されて、状況報告等や課題について協議している。	定期開催とともに課題解決に向けた話し合いが成されています。地域との関係構築を目標に「認知症サポーター養成講座」の開催が目ざされており、民生委員が橋渡し役を買ってくださっています。	自治会長の出席が得られておらず一つの課題としているため、6回のうち1回を土日開催にするといった打開策への協議を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定更新時や、市による連絡会会議に参加し、交流会で他施設の利用者や職員との交流を深めるよう努力している。	運営推進会議には行政も毎回足を運んでくださり、事業所も市の福祉展には毎年作品を展示していて、本年は季節の塗り絵を制作中です。養成講座実施に向け、地域包括支援センターの協力も得られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を継続し、玄関や窓の施錠はせず、自由に外出ができる環境を整えており、その都度職員が見守りや共に行動している。	「明日は息子さんが来るね」と声をかけ、洗濯たたみをお願いし、夕方の不穏になりやすい時間帯に歌をうたったりと、未然に拘束や抑制となるような状況をつくらぬよう努めています。「だめだよ」レベルのスピーチロックはがちのため、会議で議題としています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや日常での申し送りの中で話し合いや虐待防止について見過ごされないことを継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がいるので、制度については理解され話し合いがなされている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明しており、疑問点等はその都度説明し納得して頂けるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入口に苦情受付を明記し、契約時に説明しており、月1回お便りで意見などを伺っている。	「家族には現在の心身状態やどんなものを食べているかを知ってもらいたい」とし実現に向け進めており、また面会では日常生活を伝えることを心掛け、同じ土俵で話し合えるよう工夫しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日常の中で職員が意見を出しやすい体制を整えながら意見交換がなされている。	「永く働くためには私生活も大切」と考える管理者には愚痴が言いやすく、シフトへの希望も増えています。職制が異なっても同じ業務をおこなうようにと体制をつくり、変化が始まりつつあるときです。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できるだけやりがいの持てる職場にしていきたいと日々努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量に合わせた研修参加への促しや、ミーティング内で共有しトレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市内のGH交流会に参加し、他施設への実習を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴を収集し、情報の共有をお行いながら、現在本人が困っていることや不安になっていることへの対応ができるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を伺いながら、安心して日常生活が送れるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の意向を契約時に聞き、必要があって医療機関を希望する場合はその都度家族に聞いて支援しているが、立ち上げの時より終末期までを考えているので他のサービスを利用したことはない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が介護しているという立場ではなく共に過ごすよう心掛けし、利用者一人ひとりがその人らしい生活を送れるようさりげない支援をしてる。職員も利用者から学ぶことや、尊敬している姿勢を大切に毎日一緒に生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとって家族はとても大切な人であることを常に考え、利用者、家族の安心できる関係に努めることを努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出の希望は自由にしている。本人が利用されていた美容院に通っている。	面会の滞在時間ができるだけ延びるように、お茶をだすなど居心地のよい空間となるよう配慮しています。時節行事もソーメン流しやおはぎ、豆まきと毎月おこなわれていることを運営推進会議の議事録で確認しました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者にとって家族はとても大切な人であることを常に考え、利用者、家族の安心できる関係に努めることを努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになっても時間が経過し、家族の落ち着きが出てきた頃家族の面会がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人ができることやできないことを共有し、現在本人が心地よくできることに目を向けてケアをしている。	申し送りノートと介護日誌に記録もしますが、フェイスTOフェイスでの口頭を重視した臨場感のある伝達をおこない、例えば「イラつく様子から好みの珈琲を提供したところ落ち着いた」といったことが共有されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やこれまでの経過の情報収集に努め情報の共有ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りの中で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催し現在の状況の確認や本人ご家族の希望に添えるよう計画作成している。	センター方式を通じて整理された情報を基に「こんなことしてみたい」と、日々の想いを計画作成担当者がプラン化しています。モニタリングでは居室担当を中心に職員の観察視点も活かされています。	「実践へのチェックが弱い」と課題を把握され、短期目標とサービス内容が反映したチェックシートの作成を準備中とのことですので、実現を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録を出勤時に確認し情報の共有をしている。ミーティングで個々の話し合いを行い工夫しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「ねばならない」という考えをなくし、その時々に必要なケアができるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住宅街にあり、近くに公園で遊ぶ子供たちのこえが聞こえたり散歩中に挨拶し談話している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療があり、異常時は24時間主治医と連絡相談ができる体制をとっている。利用者全員が協力医院を利用している。	24時間対応可能な協力医で受診支援も職員がおこなうため全員が変更していますが、「急ぐことは電話で、そのほかは毎月のお便りに記載して」家族と医療情報を分かち合っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在協力医院の看護師に相談連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院へサマリー持参し本人の状況の共有に努め、退院時には病院関係者に退院の注意点等を教えて頂き主治医に報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応におけるケアマニュアルや本人や家族の意向を伺い、重度化におけるホームの指針や終末期に向けた方針を共有できるよう説明している。	看取りは書面化された手順に従って粛々と進める一方、「点滴が痛いんじゃないか」といった家族の気持ちも大切に「そのときその場面で求められる最善を」と考えています。看護師である代表が駆けつけることができ、法人内にたん吸引の認定保持者もいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各疾病のマニュアルがあり、応急対応や初期対応の勉強会を行い、ミーティングでも再確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練を行ってきた。訓練には職員全員参加し、年々避難方法を討議してきている。総合防災設備会社の担当者からも指導を受けている。運営推進会議でも議題に上がり協力体制ができるよう努力をしている。	連絡網により急ぎ向かう段取りはできていても職員の車が救急関連車をふさぐことが想定されていましたが、「うちの駐車場を使ってください」との民生委員の提案でその心配も本年から解消されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「自分らしくいつまでも」暮らしていただけるよう尊重し、誇りや、プライバシーの保護等、十分に気を配っている。言葉かけに対しても配慮している。	一人ひとりとのスキンシップや傾聴といった関わりは十分ですが、「汚物の処理を今か、後か」との優先順位がつかないといったケースも見られ、プライバシーが守られている態勢が万全とは言えません。	特段のルールはなく、理念に叶った個々人の判断であるため、一度「どんなことが尊厳を損なうのか」について職員間で話し合うことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	束縛せず、返答がゆっくりの方でも落ち着いてせかさず話してる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ゆっくり、のんびりなじみの仲間と自分らしくいつまでも」を念頭においてできる限り利用者の望む方向で過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1回美容師が来訪されてカットしている。本人の馴染みの美容院へお連れすることもある。着替える時には本人が選べるよう対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用して季節感を味わっていただいたり、メニューを共に決めている。	新鮮野菜や魚が軽トラックで届けられ、調理専任者もいて、250円とは思えないほど充実したメニューで、精米したてのご飯は旨味たっぷりです。糖尿病患者の薬が減った例からは食バランスの高さが覗えます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は職員も共に席について様子を見ながら過ごしている。食事量や栄養が低下されてきている方には栄養補給食品を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っている。ブラッシングの声掛けや、見守りを行い異常時は歯科医に訪問していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で、一人ひとりの排泄の確認をし、個々にトイレ誘導や声掛けを行っている。トイレ使用時に本人ができることを自分のペースでやっていただきその時の状況で介助を行っている。	緩やかに下がるADLに呼応して「その人ができることを無理せずに」を方針として、一人介助が二人となることがあっても本人に求めることはしていません。座る時間を増やすことで便秘対策もおこなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し、長期間便秘や排尿量が少なくなるときは、食事・水分・服薬している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の本人の状況で気分良く入浴できるように声掛けを行っている。本人のペースでゆったり湯に入っている。誘い方など職員間情報の共有をしながら入浴の支援をしている。	汚染もあるため結果として入浴はほぼ毎日となっています。チェアリフトは2名が使用していますが、浴槽が広くやや深いため体重が軽い人や小柄な人には一般浴の大きさとなる器具が用意されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中疲れが見られたら、ベッドで休んで頂き、夜間は豆電球の使用や、空調やかけ物で調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期処方、職員間で理解できている。屯用はノートに記載し、申し送り情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換の散歩や、併設の施設への訪問、ボランティアの活用をして気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近くの公園に散歩に出かけることや、季節の花や景色を鑑賞するために自動車に乗り出かけている。町内のサロンでの体操教室が開催すると参加している。	気候の良いときは月に4～5ヶ所の公園へと毎日に出ることもあり、家族も一緒にいちご狩りは恒例となり、手直ドライブ外出があります。地域サロンでは体操をおこなったり、今月は普段から親しく集う藤田幼稚園の運動会にでかけることになっています。	ADLによって外出頻度に格差がでないよう記録をとる等の工夫を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常はお金は所持していないが、買い物へ行った時には、お金を自ら支払してもらうこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいときには、本人が電話をすることもあり、手紙は書くことはしないが相手からの手紙を読まれることがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しの強いときにはカーテンを閉め光量を調節したり、朝の日光を浴びれるようにしている。	アップライトのピアノをはじめ手踏みミシン、鏡台、和筆筒は以前の利用者の置き土産や家族からの寄附とのことですが、整理整頓が成されていない面があり、貴重な品の価値が沈んでいます。	テープ跡を消したり、イベントで吊った紐を取り除くといった美化を進め、また和室の物置化を目隠しカーテン等で是正し、照明器具の点検もおこなうことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き気の合った人同士おしゃべりしたり、独りになりたいときには自由に居室で過ごされたり思いのまま過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを使用して頂くように家族にお願いしているが、家族よりの持ち込みはあまりない。	事業所で備えた介護ベッドと収納家具のみの居室で、その人らしさは多くは見られない反面、有事の際に頼りとなり、また普段は陽と風が感じられるものとして掃き出し窓の存在感が光っています。	入居前見学で観るものが当たり前と受け止めてしまうことがないよう、新規入居の家族に持ち込めるもの一覧を用意することを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全に生活できるよう、建物全体をバリアフリーで、必要な個所に手すりを設置している。		